

なぜ分かり合えないのか ～異文化相互理解のために～

3年4組 63班

研究要旨

現在大国と呼ばれ、広大な領土をもつ点で共通するアメリカとロシアだが、決して国家間の仲が良いとは言えない。2国の価値観の相違には歴史と気候が背景にあることが研究から明らかになった。相違の原因を知ること、2国の意識の違いを受け入れやすくなり、我々はより異文化への理解を深めることができる。

キーワード

- ・ **国民性**：その国の歴史や風土に起因し、国民に共通して見られると考えられている気質。今回は比較を有意義なものにするため、ある程度の一般化をしている。
- ・ **文化・コミュニケーション手法**：国内には様々な方向性の文化があるが、今回は2国内で広く普及しているものについてのみ言及している。
- ・ **集団主義**：個人と集団の関係において、個人は集団と心理的な一体感をもつとともに集団の目標や利害を自分のものよりも優先させていくという集団中心の考え方。
- ・ **個人主義**：個人の意義と価値を重視し、その権利と自由を尊重することを主張する立場や理論。

1. はじめに

近年、北朝鮮問題やアメリカの大統領選挙などから世界情勢の揺らぎがみられる。そこで、過去に世界に大きな影響を与えた出来事に関わった国について考察しようと考えた。ここでは第2次世界大戦後の冷戦を挙げ、アメリカ・ロシア間の価値観の相違について考察する。

2. 研究手法

2国の国民性、文化・コミュニケーション手法をインターネットや文献を用いて分析し、相違点と類似点を考察する。

3. 結果・考察

まず、一般的にこの両国がどういったイメージを持って認識されているのか知るために、本校3年生(2,3,4組)を対象に自由記入方式でアンケートを行った。なお、黒線は文化、白線は国民性として分類し、2票以上を有効得票数とした。一部意味が類似したものはまとめて1つの項目とした。

- ・ アメリカ

自由、陽気、フレンドリーなど、比較的明るいイメージが多かった。食べ物に関連するイメージもいくつかみられた。

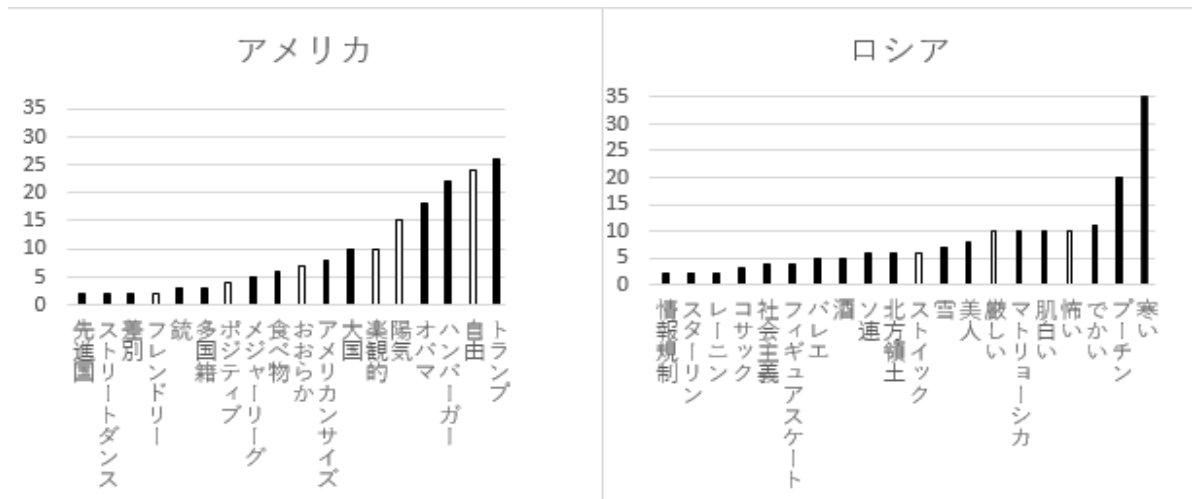
・ロシア

怖い、厳しい、ストイックなど暗いイメージが目立った。「寒い」という厳しい気候のイメージが最も票数が多い項目であった。

・共通

文化面において、ストリートダンスやバレエといった舞踊文化がみられた。また、どちらの国にも大統領の名が上位に挙がっており、このアンケートには現在の時事情勢も大きく影響していると考えられる。

図1. アメリカ、ロシアのイメージについて



(1) アメリカの特徴

・国民性

① 自国への誇り

アメリカ人は自国を偉大な国だと感じている。社会制度や体制に対しても、他国に比べずっと高い誇りを持つ傾向がある。ここには、アメリカが聖書にいう「約束の地」であるという歴史的な見方が関係している。

② 個人主義

表1. アメリカにおける個人の価値について

RANKING OF PERSONAL VALUES AMONG AMERICAN PUBLIC, 1968-1981				
VALUE	RANK			
	1968	1971	1974	1981
A world at peace (free of war and conflict)	1	1	2	2
Family security (taking care of loved ones)	2	2	1	1
Freedom (independence, free choice)	3	3	3	3
Happiness (contentedness)	4	6	5	5
Self-respect (self-esteem)	5	5	4	4
Wisdom (a mature understanding of life)	6	7	6	6
Equality (brotherhood, equal opportunity for all)	7	4	12	12
Salvation (saved, eternal life)	8	9	10	9
A comfortable life (a prosperous life)	9	13	8	8
A sense of accomplishment (lasting contribution)	10	11	7	7
True friendship (close companionship)	11	10	9	10
National security (protection from attack)	12	8	13	11
Inner harmony (freedom from inner conflict)	13	12	11	13
Mature love (sexual and spiritual intimacy)	14	14	14	14
A world of beauty (beauty of nature and the arts)	15	15	15	16
Social recognition (respect, admiration)	16	17	18	18
Pleasure (an enjoyable, leisurely life)	17	16	16	17
An exciting life (a stimulating, active life)	18	18	17	15

Sources: Representative national samples interviewed by the National Opinion Research Center, University of Chicago, in 1968 and 1971 (see Rokeach 1974); and by the Survey Research Center, University of Michigan, in 1974 and 1981.

「アメリカと日本の国民性について(研究講演会記録)」より

ここから明らかになるのは、「自由(独立性、選択の自由)」が非常に重要な価値観だと考えられている点である。68年から81年の間に4回行われた調査のうち、この項目は常に3位である。アンケート結果においても「自由」の項目は2位であった。他の上位の項目についても大きな変動は見られない。これは米国民の態度の一貫性、安定性を示しているとも言える。

③ 開拓者精神 (フロンティアスピリット)

アメリカは多くの民族からなる国家であり、他人よりも少しでも目立たなければ生きていけない。目立とうという精神を持ち、それゆえパフォーマンスやディベートが得意な国民である。アメリカの高校の授業などでは、それらを上達させるためにディベートが積極的に取り入れている。また、新しいことに積極的に挑戦する傾向もみられる。

・文化面

アメリカは18、19世紀にはじまる西部開拓から現在のアメリカの形態が形づくられた。移民たちは所有者の定まらない広大な土地を巡って我先に西部を目指した。ここには支配階級や王の命令、法律、窮屈なイデオロギー、規制がなく、実利主義あるのみという共通認識が持たれていた。また、この開拓により世界第3位の広大な領土を所有することになった。このような歴史的条件と生活領域から文化の根本となる以下の性質が現れた。

① 自由主義

西部開拓達成後、豊かな社会が形成された後もアメリカ人たちは先人の生活スピードを今日まで引き継ぎ、環境に打ち勝ち、変化をもたらしながら自らのゴールをめざす生活をしている。これによって経済や貿易業、生産業など様々な場面においてアメリカは世界1位となっている。また、アンケート結果にも挙げられている、場所や形についての制約が少ないと言われるストリートダンスといった自由で即興性のある文化も盛んである。

② 土地の争奪における個人の関係性

他人に先を越されないうちに自分でやるという開拓時代の風潮が個人主義を強めた。

・コミュニケーション方法

国家間のコミュニケーションの主な場であるビジネスにおけるコミュニケーションの手法について考える。アメリカの人々は基本的に楽観的でフレンドリーに接してくる傾向があり、そういったイメージを持たれていることもアンケートから明らかである。コミュニケーションの手法の基本的性質は次のようである。

① 「時は金なり」

回りくどい表現を好まず同意できない場合ははっきり“No”と言うなど自分の立場を明快に表明する。

② 「便宜主義的」

明確な計画を立てた上ですぐに一か八かの賭けに出る。これは開拓時代に発生した早い者勝ちの風潮によるものである。

(2) ロシアの特徴

・国民性

ロシア史の多くは外敵との戦いの歴史である(十字軍との戦い、ポーランドとの民族戦争、ナポレオンの侵攻、ドイツの祖国防衛戦争など)。その結果、ロシア人は愛国心が強く、同時に指導者が発揮する強いリーダーシップへの憧れを持つ民族へと成長した。一般生活において、例えば仕事が外的要因によって実現が困難になった場合、普段よりも行動が活発になり、主体的に動こうとする性格にそれは現れている。

・文化面

生活に支障をきたす寒い気候と広大な国土が特に農民にとって過酷であった。農民らは冬の長い時期をほとんど屋内に閉じこもって過ごす必要があり、そのうえ果てしなく続くステップ(大草原地帯)は敵が侵入するのが容易であった。このような厳しい気象条件やそれに伴う生活環境により以下の様な文化の根本的な性質があらわれた。

① 精神力(忍耐力)・用心深さ・頑固さ

政治的抑圧の中でも文化が完全に消えることはなく、当時の政府から敵対視されたパステルナーク、ソルジェニーツィンらを支援した勇気ある人々が多くいた。また、舞踏分野については、アンケート結果にもあるスケートやバレエなどは現在でも盛んである。一般に精神力や忍耐力が求められ、大きな変化がなく、アメリカのストリートダンスが持つ即興性とは真逆にあると言われる。

② 外部への敵対心

外敵に晒されやすい生活環境によって人々は人と人との絆を深め、同時に攻撃を受けやすい環境でもあるため、集団主義を強くもつようになった。

・コミュニケーション方法

国家間のコミュニケーションの主な場であるビジネスにおけるコミュニケーションの手法について考える。アンケートのイメージにも表れているが、ロシアの人々は基本的にストイックといえる。彼らの交渉は慎重で粘り強く、口数が少ないという伝統的な農民の性質に似た要素を持っている。コミュニケーションの手法の基本的性質は次のようである。

① 「チェスに似た交渉」

打つ手をいくつか用意し、行き詰まっても辛抱強く耐える手法をよく使う。自分の考えをはっきり述べない人もいる一方、感情的に芝居っ気たっぷりに話し、自分の意図や要求をはっきりと述べる人もいる。

② 「概括的かつ包括的」

全体の計画を大まかに決めた後で細部を決定していく。アメリカやドイツの1つ1つ決着させていく方法とは対照的である。

4. 結論・展望

アメリカとロシアは、上に挙げた3つの観点においては、非常に対照的な部分

が多くみられた。我々は生活条件に強く影響を受け、同じように広大な国土をもつ大国であってもかなりの相違が生じることがわかった。調べていった結果、どの要素においても歴史や気候などの理由が根本としてはっきりと表れてきた。現在の相違という結果だけではなくその根本原因を知ることは異文化理解の手助けとなり、より深い相互理解の手助けとなると考えられる。

5. 引用・参考文献

- ・ロシア人と接するにあたって-日本貿易会
<http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/angle/angle200611.pdf>
- ・アメリカと日本の国民性について(研究講演会記録)
https://www.jstage.jst.go.jp/article/yoron/71/0/71_KJ00005350108/_article/-char/ja/
- ・変革すべき企業風土と監査風土 (2007 柴田英樹)
<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/jinbun/web/img/pdf/bulletin/s18.pdf>
- ・著：リチャード・ルイス 訳：阿部珠理、2004『文化が衝突するとき 異文化へのグローバルガイド』南雲堂